

The Tokyo Tanuki Times

東京タヌキタイムズ

2014年2月号 通巻62号 毎月1日発行 購読無料

©MIYAMOTO Takumi,2014

責任編集：宮本拓海 発行：東京タヌキ探検隊！tokyotanuki.jp

本当にめったにないこと

データベースの特殊事例の報告

東京タヌキ探検隊！データベースでの特殊事例

- 白化個体(アルビノ、白変種)=タヌキ1件
- タヌキが木に登る=0件
- タヌキがタヌキ寝入り(擬死)=0件
- タヌキの目撃情報がないのは墨田区のみ
- タヌキの片足おっこ=1件
- ハクビシンが最も高く登ったのはマンション7階
- ハクビシンが電線で感電=1件
- ハクビシンが電線から落下=2件
- ハクビシンが歩道橋を渡る=3件
- ハクビシンが有刺鉄線を歩く=1件

※ここで挙げたのはいずれも東京都23区内での事例

東京タヌキ探検隊！のデータベースに記録されている目撃情報数は間もなく3000件に到達します。これだけ多くの情報が蓄積されると中には珍しい事例も含まれるものです。先日公開した最新の報告書ではそれらを「特殊事例の記録」として紹介しています。

タヌキ寝入りしないタヌキ

例えば、昨年話題になった「白いタヌキ」はデータベースでは東京都23区で1件、全国で4件記録されています。白いタヌキはニュースになりやすいので実際の発生率よりも多めに記録されることになっているようです。

タヌキが木に登る例は東京都23区では0件、全国で1件しかありません。これはタヌキの運動能力からすれば当然のことです。むしろ、木に登った1件というのがいったいどういう状況だったのかが気になります(この記録は新聞記事によるもので、詳細がわからないのです)。

そして意外に思われるかもしれませんが「タヌキ寝入り」は全国でも0件です。タヌキが驚くと死んだふりをするというのは事実ですが、それが見られるのは狩猟の現場にほぼ限られた話のようで、都市部ではまず見ることのできない現象だと言えるようです。これについてはまた別の機会に書きましょう。

珍記録はハクビシンの方がいろいろあり、電線から落ちこちたり、感電したり、マンションに登ったり落ちたり、ジャンプしたり、などの事例が発生しています。これは運動能力の高さによるもので、タヌキには真似のできないことです。

情報蓄積でわかる生態

このような特殊事例が記録されているのも目撃情報の蓄積が膨大なものになっているからこそです。数千件程度では最近はやりの「ビッグデータ」とは言えないのですが、個人が収集した情報としては十分「ビッグ」であり、それを集計・分析する

にはコンピューターが不可欠となります。手計算ではやってられない規模なのです。

今回は特殊事例ばかりを取り上げましたが、特殊でない普通の目撃事例が重要でないということではありません。普通の事例で普通のタヌキたちの生態を確認するというのも大切です。また分布地図を作るにあたっては普通・特殊どちらも関係ないことです。

公開したばかりの2014年の報告書では例年通り普通の事例の統計も掲載しています。この報告書を読めばタヌキやハクビシンの日常の暮らしぶりが想像できるでしょう。実物を観察することは重要ですが、統計からわかることも多いのです。

スポンサー枠

スポンサー募集中です！

全国のタヌキ、ハクビシンなどの情報を集めています。

<http://tokyotanuki.jp>